開催地名：徳島県上板町	
開催日時	令和元年 10 月 17 日（木）　　15：00 ～ 16：30
開催場所	上板町中央公民館
語り部	武藏野　美和　　（岩手県陸前高田市）
参加者	上板町職員、上板町社会福祉協議会職員　約 70 名
開催経緯	防災意識の向上（他の地域より比較的安全だという意識の払拭）と、災害対応力の強化（大災害の経験がないため、災害対応のイメージができない）をはかるため、東日本大震災を経験された語り部のお話を伺い、災害の恐ろしさや悲しさ等、具体的なイメージをつかみたい。
内容	（１）はじめに 私が住む陸前高田市は岩手県南部の太平洋側に位置している。岩手県の中では比較的温暖な地域で、東北の湘南とも呼ばれている。この陸前高田市は、皆様ご存知のように東日本大震災で津波の被害を受け、街が壊滅してしまった。本日は生活者の視点からの避難所運営についてお話しさせていただく。 （２）東日本大震災の被害状況 皆様ご存知のように、三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受けて対策が講じられてきたにも関わらず、また、情報網が整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者を出してしまった。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等々の多くの施設が全壊してしまった。人口 24,246 名のうち、死者・行方不明者は 1,757 名にのぼった。 （３）避難とは 陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害に遭った。一部の地区では、訓練時に使用していた地区防災センターという場所に多くの方々が避難したが、実は防災センターは指定避難所ではなかった。そのため、避難所だと思い込んで避難してきた方々の多くが犠牲になってしまった。皆が逃げることが出来なければ避難とは言えない。要支援者を含む避難訓練を日頃から実施する必要がある。陸前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまったと言える。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識していただきたいと思う。 また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要だし、ストレスが大きい場所にあえて行く必要はな

	い。家が安全であれば家で生活していただいて問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだと言える。 （４）避難所について 　避難所の運営については、地域のニーズを適格に認識しておくことが前提である。災害リスクのハザード、配慮を必要とする人の把握、話し合いの場の創出等、意識して対応していただくようお願いしたい。また、避難所を開設する地域での連携が大切である。公民館や学校等の公的施設が避難所となるケースが一般的なので、地域のニーズに則した対応を行う必要がある。避難のルールや運営本部の位置づけ、そしてあなたが担うべき役割について正しく認識しておくことをお薦めしたい。 　避難所での避難生活では、一般的な備えしかない。アレルギーに対応した食品や、赤ちゃんのミルク、個々の病状に応じた薬等、個人にとっては必須のものでも、全体では特殊なものについては用意されていないのが現実である。対応できなければ困ることは自分で備える必要がある。一時避難時の食事についても、個々で確保するのが基本である。 　家族で落ち合う場所を確認しておくことや、自助としての避難グッズを準備しておくこともお薦めいたしたい。守りたい人がいるなら、まず自分の身の安全を確保することを意識していただき、救助される側から救助する側になれるよう意識した準備を行っていただけたら幸いである。
開催地より	実際の被害状況を改めて認識して、そのすさまじさを痛感した。非常にためになるお話で、住民の自助意識を高められたと思う。